

塩技術研究, 日本塩学会誌 第1巻～第10巻 総目次
昭和22(1947)年～昭和31(1956)年

塩技術研究, 日本塩学会誌
第1巻～第10巻 (通巻1号～49号) 総目次
昭和22(1947)年～昭和31(1956)年

目 次		
1. 巻頭言	2.3 化学	3.3 研究消息
1.1 巻頭言および論説	(1) 食塩	3.4 書評
1.2 挨拶 (総会)	(2) 海水	3.5 文献抄録
1.3 挨拶 (講習会)	(3) かん水およびにがり	3.6 文献題目集
2. 報文	(4) 硫酸カルシウム	3.7 その他
2.1 土木工学	(5) 水酸化マグネシウム	
(1) 塩田	(6) 炭酸マグネシウム	
(2) 地盤	(7) イオン交換	
(3) その他	(8) 肥料	
2.2 機械工学	(9) 分析化学	
(1) 真空式	(10) 物理的性質	
(2) 加圧式	3. 資料	
(3) スケール	3.1 数表	
(4) その他	3.2 紹介	

塩技術研究, 日本塩学会誌 第1巻～第10巻 総目次
昭和22(1947)年～昭和31(1956)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
1. 巻 頭 言					
1.1 巻頭言および論説					
創刊に際して	杉山 昌作	1	1	1	1947
創刊の辞	河西 金城	1	1	2	1947
我国に於ける製塩技術研究の必要	亀山 直人	1	1	3	1947
技術家と記者	齋藤 武	4	1	39	1950
技術と啓蒙	瀧本 潔	4	2	47	1950
発刊の辞	田中 新吾	4	3・4	1	1950
日本塩学会創立に際して	永井 彰一郎	4	3・4	2	1950
日本塩学会創立に際して	秋山 孝之輔	4	3・4	3	1950
日本の塩業を顧みて	田中 新吾	4	3・4	4	1950
十州塩田と加圧式製塩	黒沢 俊一	4	5	10	1950
海水の化学工業的利用に就て	鈴木 寛	4	6	1	1950
日本製塩科学の研究のありかたについて	杉 二郎	5	1	1	1951
米国の塩業事情	三代川 清造	5	2・3	52	1951
大連抑留中の思い出	岡 俊平	5	2・3	58	1951
試験塩田の設定を望む	高嶋 四郎	5	4	143	1951
海水と雨水から	野口 武	5	5	191	1951
塩と化学工業	原田 珍重	5	6	239	1951
製塩に関する米国知見の二三	矢木 栄	6	1	1	1952
東南アジア塩業視察より帰りて	諏訪 小一郎	6	4	139	1952
塩科学の啓蒙こそ急務ではないか	菊川 忠重	6	5	191	1952
研究に対する愚見	加藤 多計夫	6	6	241	1952
学者の勇氣と実務者の勉強	平野 亮平	7	1	1	1953
塩業の発展と科学技術	西川 三次	7	2	45	1953
比島塩業調査について	諏訪 小一郎	7	2	82	1953
輸入塩と国内塩の諸問題	住吉 信吾	7	3	89	1953
東南アジアの塩業について	諏訪 小一郎	7	4	137	1953
塩科学技術の進歩のために 一本学会の当面する若干の問題について	菊川 忠重	7	5	223	1953

塩技術研究, 日本塩学会誌 第1巻～第10巻 総目次
昭和22(1947)年～昭和31(1956)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
年頭の辞	三井 武夫	7	6	237	1954
海洋資源の合理的採取方法についての一考察	吉村 甚吉	8	2	47	1954
ソーダ法海水工業について	橋爪 正男	8	4	151	1954
塩科学技術に於ける用語の問題について	菊川 忠重	8	5	233	1954
日本の塩価と研究目標	鈴木 寛	9	1	1	1955
製塩技術の進歩について	福島 正雄	9	4	169	1955
太陽熱の利用と塩田技術	内田 俊一	9	5	213	1955
製塩技術50年の歩みを見る	久保田 美寿雄	10	2	55	1956
開け行く国内塩業の道	久保田 美寿雄	10	5	193	1956

1.2 挨拶（総会）

京都に於ける第1回総会	田中 新吾	5	2・3	51	1951
松山に於ける第2回臨時総会	田中 新吾	5	6	239	1951
高松に於ける第3回総会	田中 新吾	6	3	95	1952
神戸に於ける第4回総会	永井 彰一郎	7	3	89	1953
防府に於ける第5回総会	永井 彰一郎	8	3	101	1954
防府に於ける第5回総会	平野 亮平	8	3	102	1954
広島に於ける第6回総会	永井 彰一郎	9	3	107	1955
広島に於ける第6回総会	森戸 辰男	9	3	108	1955
広島に於ける第6回総会	藤原 武	9	3	110	1955
岡山に於ける第7回総会	永井 彰一郎	10	3	99	1956
岡山に於ける第7回総会	松尾 欣二	10	3	100	1956

1.3 挨拶（講習会）

高松に於ける第1回塩科学技術講習会	久保田 美寿雄	9	2	55	1955
高松に於ける第1回塩科学技術講習会	守屋 博	9	2	56	1955
最近に於ける製塩技術のあり方について	吉村 甚吉	9	2	57	1955
防府に於ける第2回塩科学技術講習会	永井 彰一郎	10	2	57	1956
防府に於ける第2回塩科学技術講習会	長島 紀一	10	2	58	1956
徳島に於ける第3回塩科学技術講習会	永井 彰一郎	10	6	247	1956

塩技術研究, 日本塩学会誌 第1巻～第10巻 総目次
昭和22(1947)年～昭和31(1956)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
2. 報 文					

2.1 土木工学

(1) 塩田

砂層貫流式塩田	高橋 孝吉	1	2	57	1947
砂層貫流式採鹹法に就て	専売局製塩試験場	1	2	71	1947
天日塩田に関する研究 (第1報)	専売局製塩試験場	1	3	104	1947
天日塩田に関する研究 (第2報)	専売局製塩試験場	2	1	151	1948
噴霧式製塩法に関する理論	川原 琢磨	2	2	198	1948
日本に於て適用すべき天日製塩法	守田 富吉	2	3	252	1948
西野塩田に於ける天日製塩	稲村 三郎	2	3	265	1948
噴霧枝条架式製塩改良の試験成績		2	3	290	1948
塩田外堤の保安について	近藤 泰夫	3	1	1	1949
1日蒸発量の時間的変化並に季節的変化の実測報告	吉田 赳	3	1	33	1949
大規模枝条架式塩田に依る採鹹実績	南濤 遂	3	1	36	1949
砂層貫流式塩田の理論に対する試み	今津 崇	3	2	8	1949
塩田に於ける微細気象学的一実測	川原 琢磨	3	3	13	1949
入浜塩田機構論 (第1報) 撒砂の着塩能率について	杉 二郎	4	3-4	62	1950
入浜塩田機構論 (第2報) 塩田地盤の熱伝導について	杉 二郎	4	6	6	1950
塩田と災害について	諏訪 小一郎	4	6	47	1950
入浜塩田の撒砂について	塩田 春太郎	5	2-3	108	1951
入浜塩田機構論 (第3報) 塩田地盤地下水位と砂面蒸発	杉 二郎	5	4	162	1951
入浜塩田機構論 (第4報) 閉鎖, 開放毛管水帯両領域の境界について	杉 二郎	5	6	263	1951
「爬砂」操作について	塩田 春太郎	6	1	34	1952
播州赤穂東浜塩田の不良塩田の調査報告 -地質, 地下水と採塩率に就いて-	秋葉 満寿次, 多田 文男	6	2	64	1952
入浜塩田機構論 (第5報) 塩田地盤内における地下水の行動について	杉 二郎	6	3	123	1952
香川県, 愛媛県に於ける塩田堤防について	大場 信邦	6	4	181	1952
天日製塩について	尾家 麟趾, 志村 智夫, 山脇 正利	6	5	226	1952

塩技術研究, 日本塩学会誌 第1巻～第10巻 総目次
昭和22(1947)年～昭和31(1956)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
鹹水に消し炭を入れて太陽の輻射を吸収させたときの蒸発量の研究	名倉 民雄	6	6	277	1952
流動濃縮法の研究 (第1報) 流下式塩田に関する基礎研究	川原 琢磨	7	2	73	1953
流動濃縮法の研究 (第2報) 防府製塩工場所属塩田における試験	川原 琢磨	7	3	109	1953
流動濃縮法の研究 (第3報) 内海産業K. K. 及び防府製塩試験場所属塩田における試験	川原 琢磨	7	4	166	1953
枝条架式の構造と成績について	市田 駿太郎, 松家 真治	7	4	179	1953
枝条架式に関する試験	水谷 嘉隆, 佐藤 惟将, 草田 開作	7	6	254	1954
小型トラクター作業機の改造並に性能について	守田 富吉, 山本 穰, 片井 喜太郎, 林田塩産株式会社, 扶桑塩業協同組合	7	6	277	1954
流下式塩田に関する試験	福島 正男, 水谷 嘉隆, 吉田 実, 小林 秀雄	8	1	9	1954
流動濃縮法の研究 (第4報) 温泉熱利用製塩	川原 琢磨	8	6	248	1955
鹹砂の浸出機構について (第1報)	小川 恒彦, 船田 周, 新田 健三	9	1	3	1955
流下式塩田に於ける基礎計算	杉 二郎, 田中 純生, 村上 正祥	9	1	11	1955
流動濃縮法の研究 (第5報) 噴霧及び枝条架式製塩法に関する基礎理論	川原 琢磨	9	2	62	1955
防災堤防	近藤 泰夫	9	3	137	1955
滴下濃縮に於ける塩分分布に関する研究 (第1報)	小川 恒彦, 船田 周, 新田 健三	9	5	214	1955
塩田に棲息する藻類の研究	藤山 虎也	9	6	285	1956
流動濃縮に関する基礎研究	川原 琢磨, 村田 茂三, 佐橋 謙, 瀬尾 琢郎, 東 修正, 川西 博, 上田 寿	10	1	3	1956
流下式塩田に生育する藻類の生態と駆除に関する研究 (第1報) 藻類の種類, 生態, 及び駆除の基礎研究	藤山 虎也, 甲 充	10	3	105	1956
流動濃縮に関する基礎研究 塩田における輻射吸収能について	川原 琢磨	10	4	151	1956
塩田に棲息する藻類の研究	藤山 虎也	10	4	156	1956
立体濃縮装置に蒸発機構について (第1報)	池田 美登, 黒木 隆夫	10	5	225	1956
製塩に於ける自動制御	遠山 武	10	6	249	1956

(2) 地盤

塩田土壌の毛管圧と浸透係数の関係について	野口 武	2	2	221	1948
塩田用粘土の研究, 鹹水溜の研究	近藤 泰夫, 松尾 新一郎	2	3	246	1948

塩技術研究, 日本塩学会誌 第1巻～第10巻 総目次
昭和22(1947)年～昭和31(1956)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
四国塩田地方に於ける地盤沈下並にこれに伴う被害現況とその対策について	川原 琢磨	3	2	1	1949
粘土地盤の床締について (第1報)	諏訪 小一郎	3	3	1	1949
セメント代用土に関する研究 (第1報)	小川 恒彦	4	1	24	1950
セメント代用土に関する研究 (第2報)	小川 恒彦	4	2	22	1950
セメント代用土の耐鹹性に関する研究 (第3報)	小川 恒彦	4	3・4	20	1950
天日製塩法塩田土壌地盤の硬度 (第1報) 田村式落下型硬度計に依る硬度の測定	市川 一夫, 福田 増人	4	5	34	1950
天日製塩法塩田土壌地盤の硬度 (第3報) ローラーの輾圧方法が締め固めに及ぼす影響について	市川 一夫	5	1	38	1951
入浜塩田の地盤構造と採取鹹水の成分に関する研究 (第1報)	三代川 清造, 守田 富吉, 小川 恒彦	5	2・3	101	1951
天日製塩法塩田土壌地盤の硬度 (第4報) ローラーの軽重が締め固めに及ぼす影響について	市川 一夫	5	5	198	1951
入浜塩田の地盤構造と採取鹹水の成分に関する研究 (第2報)	三代川 清造, 守田 富吉, 小川 恒彦, 大場 信邦, 船田 周	5	6	257	1951
粘土地盤について (第1報) 粘土地盤の乾燥とこれに及ぼす地下水の影響について	杉 二郎, 田中 純生, 内藤 敏子	6	4	166	1952
流下式塩田地盤の透水性について	吉澤 助二郎, 三宅 猪之助, 中塚 毅, 光本 剛, 小林 秀雄	6	6	276	1952
入浜塩田の地盤構造と採取鹹水の成分に関する研究 (第3報)	三代川 清造, 守田 富吉, 小川 恒彦, 船田 周	7	3	105	1953
入浜塩田の地盤補修と毛抜水道について	塩田 春太郎	7	5	224	1953
丸亀平野並に開墾塩田附近の地質と地下水の処理について (中間報告)	多田 文男, 秋葉 満寿次, 弘法 健三	8	5	191	1954
塩田地方判定の基礎的研究	野口 正三, 野口 勝一	8	5	198	1954
入浜塩田地盤構造と地下水成分に関する研究	小川 恒彦, 船田 周	8	6	242	1955
塩田地盤不良化の機構について	弘法 健三, 野口 正三	9	2	82	1955
食塩溶液中に於ける塩化ビニル・シートの吸水性と可塑剤の溶出に就いて	平田 好顯, 高島 四郎, 岡田 正七	9	5	226	1955
流下式塩田の粘土の基礎研究	弘法 健三, 藤沢 徹	9	6	269	1956
土壌透水性の時間的变化について (第2報) 砂層の場合	八幡 敏雄	9	6	296	1956
流下式塩田築造の歩掛について	伊豆 利直	9	6	298	1956

塩技術研究, 日本塩学会誌 第1巻～第10巻 総目次
昭和22(1947)年～昭和31(1956)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
流下式塩田地盤に関する研究(第1報)粘土の塩基置換について	小川 恒彦, 船田 周, 新田 健三	9	6	305	1956
流下式塩田に於ける粘土の基礎研究(第2報)	弘法 健三, 藤沢 徹	10	4	147	1956
流下式塩田築造の歩掛について	伊豆 利直	10	4	168	1956
粘土のイオン置換試験(第1報補遺及び第2報)	小川 恒彦, 船田 周, 新田 健三	10	4	174	1956
塩田用塩化ビニールのクリープ挙動について	高嶋 四郎, 小曾根 義生, 岡田 一正七	10	5	212	1956
不透水性地盤の生成について(第1報)粘土の理化学的性質	杉 二郎, 松下 浩, 高柳 淑子	10	6	273	1956

(3) その他

亀甲砂盤による多段抽出式採鹹法	高橋 孝吉	1	1	39	1947
太陽熱利用移動式軽便製塩法	八木 右金次	1	2	102	1947
日本各地の気候の乾燥度	関口 武	5	2・3	77	1951

2.2 機械工学

(1) 真空式

中遠製塩所真空製塩装置の腐蝕状況調査	三菱重工横浜造船所	4	2	10	1950
多重効用蒸発缶に於ける濃度平衡についての一計算	川添 健一, 加峯 正美	4	5	48	1950
真空式製塩における濃縮の最終濃度について	永美 益夫, 服部 進一	5	5	227	1951
真空蒸発缶の自動液面調節装置について	波止浜塩業協同組合	6	1	33	1952
TK型蒸発缶について	石井 転	7	1	27	1953
TK型蒸発缶試験結果について	石井 転, 照井 鐘二, 渡辺 賢治	8	4	177	1954
並給式多重効用蒸発における給液予熱の蒸発量に対する影響	今津 崇	9	1	45	1955

(2) 加圧式

蒸気加圧式蒸発法の理論的考察	野口 武	1	1	5	1947
蒸気加圧式製塩に就て	専売局製塩試験場	1	1	15	1947
蒸気圧縮式製塩装置の改良	大西 正	1	2	99	1947
蒸気圧縮式蒸発装置に於ける空気漏洩の影響	八田 桂三, 岡崎 卓郎, 西野 宏, 尾野 馨	2	1	173	1948
加圧式製塩装置の事故について	半沢 信久	4	3・4	79	1950
加圧製塩法における諸条件	内田 俊一	6	3	95	1952
軸流圧縮機の加圧式蒸発装置への応用について	川添 健一, 橋爪 正男	8	1	30	1954

塩技術研究, 日本塩学会誌 第1巻～第10巻 総目次
昭和22(1947)年～昭和31(1956)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
(3) スケール					
海鹹水用熱交換器に於ける液速と附着スケールの関係に就て	専売局製塩試験場	2	2	209	1948
海洋に関する化学的研究(第23報) 海水蒸発缶における缶石附着防止法の研究	石橋 雅義, 品川 睦明, 長竹 信次	5	5	192	1951
海水の研究(第9報) 製塩工業に於ける缶石の予防	鈴木 寛	7	1	12	1953
重炭酸塩による海鹹水のカルシウム除去について	杉 二郎, 大野 丈太郎, 清水 和雄, 山崎 正雄, 吉井 孝子	7	2	66	1953
鹹水中の硫酸石灰過飽和維持に対する「クリリウム」の効果について	杉 二郎, 清水 和雄	7	6	251	1954
硫酸カルシウム結晶の生成について(第1報)	原田 武夫	8	1	23	1954
結晶種添加法による缶石附着防止について(第1報)	杉 二郎, 青木 利夫, 原田 武夫, 清水 幸夫, 中山 道夫	9	1	29	1955
結晶種添加による缶石附着防止について(第2報)	杉 二郎, 清水 和雄, 清水 幸夫	10	1	39	1956
結晶種添加による缶石附着防止について(第3報) かん水中に於ける石膏の転移の際の溶解及び析出速度に関する研究	杉 二郎, 稲川 徹, 原田 武夫, 斎藤 進, 山下 静雄	10	2	60	1956
苦汁注加, 第1缶種添加, 第4缶種添加の熱計算	今津 崇	10	6	295	1956
(4) その他					
海水電気汽缶	清水 甚一	1	1	35	1947
熱管理より見たる粗悪炭焚火法	堀 春三	1	1	46	1947
簡易高能率な製塩方法	塚越 修	1	2	96	1947
高能率製塩法	帝国人造絹糸株式会社	1	2	97	1947
冷凍又は製氷と同時に行う製塩装置	高田 雅弘	1	2	98	1947
妙高式冷凍製塩法	山下 多賀雄	1	2	99	1947
N式製塩装置	竹内 直秀	1	2	100	1947
海水等の電氣的加熱蒸発濃縮法	篠田 栄	1	2	101	1947
電気製塩に関する二, 三の問題(第1報)	黒河内 秀臣	2	1	170	1948
電気製塩に関する二, 三の問題(第2報)	黒河内 秀臣	2	2	230	1948
專業製塩の熱管理(第1報)	本村 季治	2	3	269	1948
專業製塩の熱管理(第2報)	本村 季治	3	1	9	1949
階段式燃焼装置による蒸気利用製塩工場成績試験報告	日本専売公社味野出張所	3	2	37	1949
自動制御に関する研究	兼重 寛九郎	6	2	70	1952

塩技術研究, 日本塩学会誌 第1巻～第10巻 総目次
昭和22(1947)年～昭和31(1956)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
海鹹水中に於ける金属の腐蝕について (第1報) 異種金属の組合せによる腐蝕について	中野 順, 渡邊 政孝	6	4	170	1952
沈降脚を使用した採塩装置についての基礎試験	杉 二郎, 清水 幸夫	6	6	255	1952
製塩用蒸発缶における泡立ち防止について	杉 二郎, 清水 和雄, 原田 武夫	6	6	260	1952
海水の利用に関する研究 (第10報) 海水焚汽缶に於ける汽水共発 (プライミング) について	鈴木 寛, 那須 正一, 降旗 作衛, 清水 和雄, 友田 俊一, 岩永 豊	7	3	124	1953
海水の利用に関する研究 (第11報) 精製海水の汽缶による濃縮について	鈴木 寛	7	6	257	1954
液体サイクロンに就て	石川 哲三	7	6	269	1954
蒸気エゼクターについて	堺 嘉之, 岡本 速雄	8	1	6	1954
海水の利用に関する研究 (第12報) 続き 精製海水の汽缶による濃縮について	鈴木 寛, 那須 正一, 降旗 作衛, 清水 和雄, 友田 俊一, 岩永 豊	8	1	13	1954
自動制御に関する研究	兼重 寛九郎	8	5	212	1954
自動制御に関する研究	兼重 寛九郎	9	2	84	1955
海かん水中に於ける金属の腐蝕及び防蝕について (第2報)	中野 順	9	5	238	1955
熱経済上よりの洗缶時期の決定法について	小川 恒彦, 船田 周, 新田 健三	9	6	277	1956
蒸気圧縮機の羽根車の防蝕対策	石崎 七郎	10	1	1	1956
ターボブローワーの材質について	下平 三郎	10	4	186	1956

2.3 化学

(1) 食塩

粗悪塩の鉄分と色相について	中野 順, 田中 純生, 竹中 況三, 内藤 敏子	6	5	232	1952
食塩結晶内の液泡の大きさ	原田 武夫, 中山 道夫	7	1	32	1953
製塩用界面活性剤使用による製塩試験 (附. 母液注入低濃度せんごうについて)	大場 信邦, 宇山 茂, 青山 盛雄	8	1	36	1954
鹹水の天日蒸発及びかくて得られた飽和鹹水よりの食塩の結晶について	名倉 民雄, 横田 暢一	8	2	89	1954
食塩の結晶について	岡 宗次郎	8	3	103	1954
塩化ナトリウムの薄片状結晶について	原田 武夫	8	4	182	1954
食塩水溶液から成長する食塩結晶の成長速度に及ぼす陰イオンの影響について	平位 純男, 三好 光治	8	6	267	1955
塩包装に関する研究 第1報 食塩の吸湿性と潮解性	武田 文七	9	2	87	1955

塩技術研究, 日本塩学会誌 第1巻～第10巻 総目次
昭和22(1947)年～昭和31(1956)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
高純度塩化ナトリウムの製造について	遠山 一郎	9	3	124	1955
球状食塩について	原田 武夫, 中山 道夫	9	3	154	1955
塩包装に対する防湿包装材料の包装効果	武田 文七	9	6	290	1956
食塩の品質に関する研究	住木 諭介	9	6	311	1956
マンガン塩類添加による食塩の品質改良について	杉 二郎, 清水 和雄, 桜井 照夫	10	1	27	1956
食塩結晶の観察	原田 武夫	10	3	122	1956
塩包装における防湿包装材料の防湿性と温度および湿度との関係	武田 文七	10	4	158	1956
塩類晶出に及ぼすヘキサメタリン酸ナトリウム添加の影響 (第1報)	室谷 寛	10	5	219	1956
工程管理について 第3回塩科学技術講習会	武藤 義一	10	6	265	1956
塩類晶出に及ぼすヘキサメタリン酸ナトリウム添加の影響 (第2報) NH_4Cl , KCl , KBr , $\text{CaSO}_4 \cdot 2\text{H}_2\text{O}$ の場合	室谷 寛, 白崎 高保, 小平 博之	10	6	278	1956

(2) 海水

海水の研究 (第7報) 海水中の金の析出に就て	鈴木 寛, 降旗 作衛, 中村 精二	5	4	144	1951
最近の資料より見た沿岸水域の塩分値就て	福岡 二郎	5	6	274	1951
海水中に溶存する元素量の規則性について及び海洋の年令について (その二)	石橋 雅義, 原田 保男	6	1	12	1952
大塩塩田に於ける海水, 地下水の塩素濃度の分布について (第1報)	廣田 正義, 萩野 友治, 横山 督	7	5	201	1953
大塩塩田に於ける海水の濃度分布について (第2報)	廣田 正義, 加藤 進, 萩野 友治	7	6	273	1954
海水取水口附近の微組海洋観測について	三宅 泰雄, 橋爪 正男	8	1	35	1954
八木塩田に於ける海水の濃度分布について (その1)	廣田 正義, 加藤 進, 西村 新一郎	8	2	82	1954
兵庫県八木塩田の海水濃度分布について (第二報) 皮革工業廃水の流入による影響	加藤 進, 山下 康一	8	4	179	1954
海水汚染調査	三宅 泰雄	10	4	177	1956

(3) かん水およびにがり

苦汁より純塩化カリの製法	岡 宗次郎	1	3	130	1947
苦汁の利用研究 (第2報) 苦汁から硼酸の分離に就て	永井 彰一郎, 川澄 義明	2	1	163	1948
苦汁利用に就て	永井 彰一郎	2	3	279	1948
苦汁の電解処理	野崎 弘	4	1	7	1950

塩技術研究, 日本塩学会誌 第1巻～第10巻 総目次
昭和22(1947)年～昭和31(1956)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
生苦汁と越冬苦汁との関係について	清水 和雄, 原田 武夫	4	2	1	1950
各地生産鹹水成分調査	日本専売公社防府製塩試験場	4	2	41	1950
鹹水及び苦汁の低温処理に依る硫酸塩の析出について(第1報) 析出塩の種類及び析出限度の理論的計算	岡 俊平, 門田 稔	4	3・4	8	1950
苦汁鹹水から臭素を製造する研究	望月 源吾	4	3・4	30	1950
鹹水, 苦汁の塩化石灰処理(第1報)	吉村 甚吉	4	5	16	1950
苦汁, 鹹水, 海水よりの臭素製造と二臭化エチレン製造との一貫作業に関する研究(第1報)	望月 源吾, 市川 秀夫	4	5	18	1950
海洋に関する化学的研究(第21報) 天日塩田苦汁の化学組成について	村上 敏治	4	5	24	1950
鹹水及び苦汁の低温処理に依る硫酸塩の析出について(第2報) 既存文献に依る理論的計算法の吟味	岡 俊平, 門田 稔	4	6	36	1950
苦汁鹹水, 海水よりの臭素製造と二臭化エチレン製造との一貫作業に関する研究(第2報) 電解法による場合	望月 源吾, 市川 秀夫	5	1	4	1951
苦汁加里塩の鹹水処理方法について	村上 敏治	5	2・3	71	1951
苦汁から硫酸カリの製造について(第1報) 塩化加里と硫酸マグネシウムの複分解の相律的検討	岡 俊平	6	2	81	1952
マグネシウムとカルシウムとを除去した海水からの製塩について	岡 俊平	7	2	57	1953
Carnalliteより塩化カリの製造	芝田 武信, 渡辺 春幸	7	4	146	1953
苦汁から硫酸加里の製造について(第2報) 塩化加里と硫酸マグネシウムとの複分解の実験	岡 俊平, 門田 稔	7	5	210	1953
海洋に関する化学的研究(第56報) 苦汁の直接電解による塩素塩の生成について(1)	石橋 雅義, 原田 武夫	7	5	215	1953
苦汁から硫酸カリの製造について(第3報) カーナリットと苦汁加里塩との複分解によるカリマグネシアの製造についての相律的検討	岡 俊平, 門田 稔, 沢崎 俊幸	7	6	242	1954
にがりの直接電解による塩素酸塩の生成について(第2報)	原田 武夫	8	2	75	1954
にがりの直接電解による塩素酸塩の生成について(第3報)	原田 武夫	8	3	130	1954
製塩過程に於て析出する硫酸塩の態度について	秋本 信吉	8	6	239	1955
蒸発缶により製したカーナライトから塩化加里の抽出製造	坂本 佳六	9	1	8	1955
炭酸ソーダによる鹹水の精製	萩野 友治, 小林 義信	9	5	222	1955

塩技術研究, 日本塩学会誌 第1巻～第10巻 総目次
昭和22(1947)年～昭和31(1956)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
かん水せんごうの化学的考察 (第1報)	秋本 信吉	9	5	260	1955
かん水せんごうの化学的考察 (第2報)	秋本 信吉	9	5	260	1955
かん水せんごうの化学的考察 (第3報)	秋本 信吉	9	5	261	1955
製造過程における諸元素の行動に関する研究	石橋 雅義	10	4	155	1956
かん水せんごうの化学的考察 (第4報)	秋本 信吉	10	5	209	1956

(4) 硫酸カルシウム

製塩副産石膏より焼石膏とドロマイトによるプラスターについて (第1報)	永井 彰一郎, 福森 康	6	3	117	1952
製塩副産石膏より焼石膏とドロマイトによるプラスターについて (第2報)	永井 彰一郎, 福森 康, 市毛 喜美子	6	5	210	1952
製塩副産石膏より焼石膏とドロマイトによるプラスターについて (第3報)	永井 彰一郎, 福森 康, 市毛 喜美子	7	1	2	1953
塩田石膏よりストロンチウム抽出に関する研究 (第1報)	望月 源吾, 市川 秀夫, 永田 正勝	8	2	51	1954
製塩副産石膏使用の石膏ドロマイトプラスターの試製研究	永井 彰一郎, 福森 康	8	3	134	1954
製塩副産石膏 (特にスケール) の利用研究	永井 彰一郎	9	2	78	1955
製塩工場の廃物から良い結晶石膏の製造に関する研究	坂場 博	9	3	127	1955
製塩副産石膏の利用に関する研究	永井 彰一郎	9	6	273	1956
製塩副産石膏の利用に関する研究	永井 彰一郎	10	4	154	1956
製塩副産石膏の処理利用研究	永井 彰一郎, 福森 康	10	5	194	1956

(5) 水酸化マグネシウム

苦汁の利用研究 (第1報) 苦汁の水熱分解による塩酸とマグネシア・セメントの製出	永井 彰一郎, 川澄 義明	1	3	124	1947
水酸化マグネシウム及び酸化マグネシウムのゴム配合剤としての利用について (第1報)	永井 彰一郎, 杉 二郎, 中野 順	4	1	10	1950
塩化マグネシウムの水熱分解による塩酸の製造について	釘宮 典友, 辻 喬	4	3-4	47	1950
水酸化マグネシウムの製造及び其の利用について	中野 順	4	3-4	81	1950
苦汁, 鹹水中のマグネシウム塩の利用問題 (特に水酸化マグネシウム及びマグネシアに就いて)	永井 彰一郎	4	5	1	1950
苦汁の石灰法処理に就て	釘宮 典友	4	6	30	1950
海水に関する研究 (第5報) 水酸化マグネシウムの結晶について	鈴木 寛, 降旗 作衛	5	1	26	1951

塩技術研究, 日本塩学会誌 第1巻～第10巻 総目次
昭和22(1947)年～昭和31(1956)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
海洋に関する化学的研究 (第22報) 苦汁より純マグネシア (MgO) の製法について	石橋 雅義, 重松 恒信, 中川 泰治	5	2・3	74	1951
水酸化マグネシウム及び酸化マグネシウムのゴム配合剤としての利用について (第2報)	永井 彰一郎, 杉 二郎, 中野 順, 竹中 況三	5	5	206	1951
海水マグネシアによるマグネシア・セメントの研究 (第1報)	永井 彰一郎, 戸賀崎 義雄, 福森 康	5	6	251	1951
海水マグネシアによるマグネシア・セメントの研究 (第2報)	永井 彰一郎, 福森 康	6	1	6	1952
水マグの利用に関する研究	永井 彰一郎	6	2	45	1952
水酸化マグネシウムのゴム利用に関する研究	高嶋 四郎, 萩野 友治	6	2	57	1952
ゴム配合剤を目的とする水酸化マグネシウムの研究 (第1報) 水酸化マグネシウムの配合による透明ゴムの生成について	高嶋 四郎, 萩野 友治	6	3	106	1952
海水の研究 (第8報) 海水より水酸化マグネシウムの工業的製造	鈴木 寛	6	6	242	1952
海水より金属マグネシウムの製造について	大野 丈太郎	7	1	34	1953
海水マグネシアによるマグネシア・セメントの研究 (第3報) マグネシア・セメントにドロマイトプラスター, 焼石膏の混合試験	永井 彰一郎, 福森 康	7	2	46	1953
英米の海水マグネシア製造と金属マグネシウム問題	永井 彰一郎	7	5	189	1953
海水よりの石膏マグネシア・セメントの研究 (第1報)	永井 彰一郎, 福森 康, 市毛 喜美子	7	6	238	1954
水酸化マグネシウム製造に関する研究	広田 正義, 勝部 幸輝	8	2	73	1954
ドロマイトと苦汁とより水酸化マグネシウムの製造に関する研究 (第1報) ドロマイトの燃焼について	秋山 麗三, 高嶋 四郎	8	3	125	1954
水酸化マグネシウムに関する研究 (第2報) X線的研究	広田 正義, 勝部 幸輝	8	4	161	1954
水マグの利用に関する研究	永井 彰一郎	8	5	211	1954
ゴム配合剤を目的とする水酸化マグネシウムの研究 (第2報)	高嶋 四郎, 萩野 友治, 池田 昭美	8	6	252	1955
海水マグネシアによる金属マグネシウムの新製法	永井 彰一郎, 米山 孝	8	6	280	1955
ドロマイトと苦汁とより水酸化マグネシウムの製造に関する研究 (第3, 4報)	秋山 麗三, 岡本 和吉, 高嶋 四郎	9	1	19	1955
苦汁の水熱分解に関する研究	永井 彰一郎, 伊与田 敏雄	9	4	170	1955
海水マグネシアによる建築用マグネシア防火板の試製研究	永井 彰一郎, 福森 康	9	4	192	1955
海水より水酸化マグネシウムの製造について	小野寺 勇蔵	10	2	86	1956
カーバイト廃滓を利用した水酸化マグネシウムの製造について (第1報)	高嶋 四郎, 秋山 麗三, 岡本 和吉, 菊山 重文	10	3	117	1956

塩技術研究, 日本塩学会誌 第1巻～第10巻 総目次
昭和22(1947)年～昭和31(1956)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
水酸化マグネシウムの肥効と硼酸の関係について	平井 敬蔵	10	4	150	1956
Mg(OH) ₂ 又はCa(OH) ₂ を含む新しいTripple Saltsについて	中山 道夫	10	4	188	1956
水酸化マグネシウムの製造について	上原 実, 杉山 幹雄	10	6	287	1956
(6) 炭酸マグネシウム					
塩基性炭酸マグネシウムの電子顕微鏡による研究	萩野 友治, 高嶋 四郎	5	2・3	66	1951
水酸化マグネシウムを原料とする炭酸マグネシウム製造法 (第1報) 石灰苦汁法水酸化マグネシウムと濃厚苦汁及び重曹を使用する場合	村上 敏治, 石原 良雄	6	3	110	1952
塩基性炭酸マグネシウムの研究 (第2報) 各種塩基性炭酸マグネシウムのゴム配合試験結果について	萩野 友治, 平田 好顯	6	5	219	1952
塩基性炭酸マグネシウムの研究 (第3報) 塩基性炭酸マグネシウムの屈折率について (簡便なる粉体屈折率の測定法)	萩野 友治	6	6	252	1952
水酸化マグネシウムを原料とする炭酸マグネシウム製造法 (第2報) 重曹を使用する追加試験	村上 敏治, 石原 良雄	7	1	6	1953
水酸化マグネシウムを原料とする炭酸マグネシウム製造法 (第3報) 炭酸マグネシウムの試作と其のゴム配合試験	村上 敏治, 石原 良雄	7	2	52	1953
塩基性炭酸マグネシウムの研究 (第4報) 塩基性炭酸マグネシウム生成時の沈降比容	萩野 友治	8	2	66	1954
塩基性炭酸マグネシウムの研究 (第5報) 中性塩より塩基性塩の生成過程	萩野 友治	8	3	121	1954
塩基性炭酸マグネシウムの研究 (第6報) 透明度を良くする方法について	萩野 友治, 高嶋 四郎	8	4	168	1954
塩基性炭酸マグネシウムの研究 (第7報) ソーダ法による中性炭酸マグネシウムの生成過程	萩野 友治	8	5	226	1954
水酸化マグネシウムを原料とする炭酸マグネシウム製造法 (第4報) 炭酸マグネシウムの炭酸ガス反応について	村上 敏治, 石原 良雄, 上杉 勝弥	9	3	131	1955
塩基性炭酸マグネシウムの研究 (第8報) 濾過, 乾燥並に粉碎条件が製品の見掛比容に及ぼす影響	萩野 友治	9	4	177	1955
塩基性炭酸マグネシウムの研究 (第9報) 熟成の効果に関するX線の考察	萩野 友治	10	2	77	1956

塩技術研究, 日本塩学会誌 第1巻～第10巻 総目次
昭和22(1947)年～昭和31(1956)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
塩基性炭酸マグネシウムの研究 (第10報) 不純物の形態とその定量	萩野 友治	10	5	214	1956

(7) イオン交換

海水成分抽出に関する研究 (第1報) イオン交換剤によるNa ⁺ 及びCl ⁻ の抽出に就て	小川 恒彦, 原田 武夫, 松本 たゑ子	1	1	31	1947
樹脂吸着製塩法	植月 千萬	1	2	101	1947
海水成分抽出に関する研究 (第2報) イオン交換剤によるNa ⁺ 及びCl ⁻ の抽出に就て	小川 恒彦, 原田 武夫, 松本 たゑ子	1	3	134	1947
海水成分抽出に関する研究 (第3報) イオン交換剤によるNa ⁺ 及びCl ⁻ の抽出に就て	小川 恒彦, 原田 武夫, 松本 たゑ子	2	3	250	1948
イオン交換樹脂による海水中のCa除去に就ての一考察	杉 二郎, 清水 博	6	4	185	1952
海水の新しい濃縮法「電解濃縮法」について	岡 俊平	8	1	1	1954
イオン交換膜による海水の電解	杉 二郎, 原田 武夫, 江崎 茂, 畠山 盛義, 井上 隆元	8	2	59	1954
アンモニア ソーダ法に於ける蒸溜廃液の陽イオン交換樹脂による転換	山辺 武郎	8	3	118	1954
硫酸バリウムのイオン交換による溶解について	山辺 武郎, 下條 うた子	8	4	164	1954
陰イオン交換による海水の精製 (第3報) 強塩基性陰イオン交換樹脂Amberlite IRA-410による精製	山辺 武郎, 下條 うた子	8	5	223	1954
陰イオン交換による海水の精製 (第4報) 強塩基性陰イオン交換樹脂による硫酸根の除去について	山辺 武郎, 砂原 正行	9	4	188	1955

(8) 肥料

新塩蔵法と其実施方法	日本専売公社中央研究所	3	3	19	1949
食塩の滲入速度に及ぼす夾雑塩の影響 (1)	森 高次郎	6	2	46	1952
苦汁加里及びその他の加里塩の濃度が作物種子の発芽及び初期成育に及ぼす影響について	西川 五郎	6	2	53	1952
苦汁処理による苦土の肥料としての利用について	三井 進午	6	2	63	1952
電解を併用する苦汁カリ塩の新採取法並びに配合カリ窒素肥料の新製造法の研究	石橋 雅義	8	5	220	1954

塩技術研究, 日本塩学会誌 第1巻～第10巻 総目次
昭和22(1947)年～昭和31(1956)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
三方ヶ原苦土欠乏強酸性土壌に対する苦汁肥料の効果 燐酸質肥料の肥料増進に対する食塩, 塩マグ等各種中性塩類添加の効果	三井 進午	8	5	221	1954
肥料効率増進に及ぼす塩類添加の影響	三井 進午	9	2	93	1955
燐酸質肥効に及ぼす塩類共存の効果について	三井 進午, 天正 清, 宮脇 謙三	9	6	271	1956
9巻6号「燐酸質肥料の肥効に及ぼす塩類共存の効果に就て」の附表		10	2	82	1956

(9) 分析化学

塩務に関する分析法の解説	清水 和雄	3	3	25	1949
海水中の鉛の微量定量とその地球化学的意義 (海洋の年齢について)	石橋 雅義, 田中 正雄, 早川 久雄	5	1	15	1951
製塩に関する迅速分析法の研究 (第1報) 容量法による石灰及びマグネシウムの迅速定量	岡 宗次郎, 武藤 義一, 永塚 澄子	6	4	152	1952
塩の分析に関する研究 ロヂゾン酸ソーダを指示薬とする硫酸根の容量分析法について	清水 和雄, 桜井 照夫	6	4	158	1952
食塩の簡易分析法について (第1報) 光電光度計による SO_4^{2-} の定量	小川 恒彦, 船田 周	7	1	21	1953
製塩に関する迅速分析法の研究 (第3報) 光電光度法によるマグネシウムの迅速定量	岡 宗次郎, 武藤 義一, 和田 芳裕	7	3	116	1953
製塩に関する迅速分析法の研究 (第4報) 苦汁中のマグネシウムの迅速定量法の検討	岡 宗次郎, 武藤 義一, 和田 芳裕, 永塚 澄子	7	3	121	1953
製塩に関する迅速分析法 (第5報) 遠心分離機を利用した硫酸根の迅速定量 (第6報) 遠心分離機を利用した加里の迅速定量	岡 宗次郎, 武藤 義一, 和田 芳裕	7	4	160	1953
反射型分光光度計の塩素への応用例について	平田 好顯, 高島 四郎	7	5	206	1953
塩務に関する分析方法の精度	三代川 清造, 小山 義一, 加峯 正美	8	3	137	1954
燐酸石灰塩法におけるマグネシウムの「てい送沈殿」について	加藤 進	8	6	257	1955
蒸溜法による食塩中の水分定量	岡 宗次郎, 清水 和雄, 山崎 正雄	8	6	272	1955
塩分析とポーラログラフ法	品川 睦明	9	4	181	1955
EDTAによるマグネシウム, カルシウム, 鉄及び銅の定量法と応用	清水 和雄, 上原 実	9	5	249	1955

塩技術研究, 日本塩学会誌 第1巻～第10巻 総目次
昭和22(1947)年～昭和31(1956)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
X-ray diffractometerによる苦汁製品の分析 (第1報) 水酸化マグネシウム中のカルシウムの定量 (第2報) $\text{CaSO}_4 \cdot 2\text{H}_2\text{O}$ - $\text{CaSO}_4 \cdot 1/2\text{H}_2\text{O}$ - CaSO_4 混合物の分析	高嶋 四郎, 萩野 友治, 橋詰 源蔵	10	4	178	1956
食塩に関する簡易迅速分析法について	岡 宗次郎, 宇野 昌平	10	5	199	1956
遠心沈殿法による食塩の迅速分析	清水 和雄, 山崎 正雄	10	5	204	1956
稼酸メチルを用いる海水中の石灰の定量について	加藤 進	10	5	222	1956
臭素中の微量塩素の迅速定量法	石橋 雅義, 重松 恒信, 柴田 正三	10	6	284	1956

(10) 物理的性質

海水鹹水苦汁の比抵抗測定試験	専売局塩脳部技術課	1	3	139	1947
海水鹹水及び苦汁の物理的性質の研究 低濃度鹹水の粘度測定	原田 武夫	2	3	278	1948
新しい製塩用計算尺及び海水濃縮率表	岡安 健一	3	1	22	1949
海水濃縮過程に於ける成分の変化について	小野寺 勇蔵, 天明 茂子	3	2	17	1949
海水の濃縮に依る比重と容積との関係	市川 一夫	4	2	29	1950
海洋に関する化学的研究 (第20報) 海水蒸発に伴う塩類析出機構の化学的研究	石橋 雅義, 村上 敏治	4	3-4	51	1950
海鹹水の蒸気圧及び沸点上昇に関する測定研究	内田 俊一, 芝 龜吉	6	2	51	1952
海水の恒温 (25°C) 濃縮による比重と容積との関係 (第2報) 旧関東州に於ける製塩地沿岸海水及びその濃縮海水の比重と塩素量	市川 一夫, 福田 増人	6	4	145	1952
海水の研究 (第6報) 海水並に鹹水の沸点測定 (常気圧並に減圧に於て)	鈴木 寛, 中村 精二, 川村 信一郎	6	5	192	1952
食塩の仮比重について	原田 武夫	6	5	201	1952
海鹹水の蒸発に際して必要となる諸性質の測定 (第1部) 海鹹水の沸点上昇について (第2部) 濃縮率と結晶析出との関係について	内田 俊一, 小川 茂	7	4	149	1953
かん水の粘性係数の測定	今津 崇, 中山 秀夫	8	4	154	1954
海かん水の飽和蒸気圧	芝 龜吉, 才野 武彦	8	4	172	1954
海水及び鹹水の飽和蒸気圧	内田 俊一, 芝 龜吉, 才野 武彦	8	5	218	1954
ボーメ比重の定義について	今津 崇	8	5	233	1954
飽和鹹水の濃縮による塩類の析出について	小野寺 勇蔵	8	6	260	1955

塩技術研究, 日本塩学会誌 第1巻～第10巻 総目次
昭和22(1947)年～昭和31(1956)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
海水濃縮の最小エネルギーの理論化について	芝 亀吉	9	2	94	1955
かん水及びカルシウムとマグネシウムとを除去したかん水の粘性係数と伝熱係数	原田 武夫, 山下 静雄	9	2	96	1955
海水濃縮率の測定	今津 崇, 原田 武夫, 芦原 恒夫	9	4	196	1955
アルミニウムの板目盛り浮秤	原田 武夫	9	4	208	1955
ボーメ比重の問題点	菊川 忠重	9	4	208	1955
海水の恒温 (25°C) 濃縮による比重と容積との関係 (第3報)	市川 一夫, 福田 増人	10	2	71	1956
食塩の白色度について (第1報) 簡易白度計の試作	原田 武夫, 増沢 力	10	5	234	1956
ボーメ比重の定義について	今津 崇	10	5	244	1956

3. 資 料

3.1 数表

海水濃縮減容率 (%)	関東塩業試験場	1	1	4	1947
鹹水母氏比重を15°Cに換算する更正值		1	3	143	1947
海水成分表		2	1	196	1948
Gerlachの表		2	2	241	1948
各地方専売局天候と採鹹作業との関係調		2	2	244	1948
鹹水混和再製図表		3	2	41	1949
昭和22年度月別採鹹成績表	日本専売公社塩技術課	3	3	43	1949
昭和24年1～6月分天候と採鹹作業との関係調集計表		3	3	45	1949
昭和24年天候と採鹹作業との関係調集計表 (其2)	日本専売公社塩技術課	4	1	37	1950
苦汁処理工程図表について	塩業審議会副産部会	4	3-4	77	1950
昭和24年1～8月分天候と採鹹作業との関係調集計表 (その3)	日本専売公社塩技術課	4	6	46	1950
苦汁処理工場の設備等実態調査について		6	1	27	1952
塩田機械化の概略について		6	1	28	1952
昭和27年度輸入塩成分調	日本専売公社塩技術課	7	3	135	1953

3.2 紹介

種々の使用目的に適した食塩	James A. Lee, (訳者)三代川 清造, 小川 恒彦	4	1	1	1950
気象集誌 (昭和24年10月より)	今津 崇	5	1	47	1951
陰イオンの比色定量法 (I)	石橋 喜代司	9	5	263	1955
陰イオンの比色定量法 (II)	石橋 喜代司	10	2	96	1956

塩技術研究, 日本塩学会誌 第1巻～第10巻 総目次
昭和22(1947)年～昭和31(1956)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
3.3 研究消息					
日本学術振興会学術部第33 (製塩) 特別委員会消息 (其1)	永井 彰一郎	1	1	48	1947
専売局塩研究部現況	専売局中央研究所	1	1	50	1947
昭和21年度試験計画	専売局製塩試験場	1	1	52	1947
日本学術振興会 (第33製塩) 特別委員会の進行状態の簡単な報告	亀山 直人	1	3	136	1947
日本学術振興会学術部第33 (製塩) 特別委員会消息 (其2)	永井 彰一郎	2	1	188	1948
日本学術振興会学術部第33 (製塩) 特別委員会消息 (其3)	永井 彰一郎	2	2	234	1948
日本学術振興会学術部第33 (製塩) 特別委員会消息 (其4)	永井 彰一郎	2	3	284	1948
日本学術振興会学術部第33 (製塩) 特別委員会消息 (其5)	永井 彰一郎	3	1	29	1949
日本学術振興会学術部第33 (製塩) 特別委員会消息 (其6)	永井 彰一郎	3	2	27	1949
日本学術振興会学術部第33 (製塩) 特別委員会消息 (其7)	永井 彰一郎	3	3	36	1949
日本学術振興会学術部第33 (製塩) 特別委員会消息 (其8)	永井 彰一郎	4	1	29	1950
日本学術振興会学術部第33 (製塩) 特別委員会消息 (其9)	永井 彰一郎	4	2	34	1950
日本学術振興会学術部第33 (製塩) 特別委員会消息 (其10)	永井 彰一郎	4	3-4	71	1950
日本学術振興会学術部第33 (製塩) 特別委員会消息 (其11)	永井 彰一郎	6	1	23	1952
日本専売公社小名浜工場案内		6	6	275	1952
3.4 書評					
海, かん水の自然濃縮 (川原琢磨)	杉 二郎	10	5	245	1956
塩の話	鈴木 篁	10	6	272	1956
3.5 文献抄録					
Chemical Abstracts, Vol.44 No.9~10	小川 恒彦	4	3-4	84	1950
Chemical Abstracts, Vol.44 No.11	小川 恒彦	4	5	51	1950
Chemical Abstracts, Vol.44 No.12	小川 恒彦	4	6	49	1950
Chemical Abstracts, Vol.44 No.13~16	小川 恒彦	5	1	44	1951
Chemical Abstracts, Vol.44 No.16~21	小川 恒彦	5	2-3	115	1951
続, 海塩工業文献集	田中 泰夫	5	2-3	120	1951
Chemical Abstracts, Vol.45 No.1~4	小川 恒彦	5	4	187	1951
Chemical Abstracts, Vol.45 No.5~8	小川 恒彦	5	5	234	1951
Chemical Abstracts, Vol.45 No.9~11	小川 恒彦	5	6	279	1951
Chemical Abstracts, Vol.45 No.12~16	小川 恒彦	6	1	37	1952

塩技術研究, 日本塩学会誌 第1巻～第10巻 総目次
昭和22(1947)年～昭和31(1956)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
Chemical Abstracts, Vol.45 No.17～19	小川 恒彦	6	2	90	1952
Chemical Abstracts, Vol.45 No.20～22	小川 恒彦	6	4	187	1952
Chemical Abstracts, Vol.46 No.1～4	小川 恒彦	6	5	236	1952
Chemical Abstracts, Vol.46 No.5～8	小川 恒彦	6	6	280	1952
Chemical Abstracts, Vol.46 No.9～12	小川 恒彦	7	1	39	1953
Chemical Abstracts, Vol.46 No.13～16	小川 恒彦	7	2	84	1953
Chemical Abstracts, Vol.46 No.17～19	小川 恒彦	7	4	182	1953
Chemical Abstracts, Vol.46 No.20～22	小川 恒彦	7	5	227	1953
Chemical Abstracts, Vol.47 No.1～6	小川 恒彦	7	6	282	1954
Chemical Abstracts, Vol.47 No.5～11	小川 恒彦	8	1	41	1954
Chemical Abstracts, Vol.47 No.12～15	小川 恒彦	8	2	93	1954
Chemical Abstracts, Vol.47 No.16～21	小川 恒彦	8	4	185	1954
Chemical Abstracts, Vol.48 No.1～5	小川 恒彦	8	5	234	1954
Chemical Abstracts, Vol.48 No.6～10	小川 恒彦	9	1	48	1955
Chemical Abstracts, Vol.48 No.11～13	小川 恒彦	9	3	157	1955
Chemical Abstracts, Vol.48 No.13～16	小川 恒彦	10	1	46	1956
Chemical Abstracts, Vol.48 No.17～22	小川 恒彦	10	3	131	1956
Chemical Abstracts, Vol.49 No.1～6	小川 恒彦	10	5	240	1956

3.6 文献題目集

専売局中央研究所既発表報告一覧(塩関係)		1	1	53	1947
専売局製塩試験場試験報告一覧(採鹹関係)		1	3	145	1947
専売局製塩試験場試験報告一覧(煎熬の部)		2	1	191	1948
専売局製塩試験場試験報告一覧(副産物の部)		2	2	239	1948
専売局製塩試験場試験報告一覧(分析の部)		2	3	287	1948
旧関東州庁塩業試験場報告一覧		3	2	42	1949
真空式製塩工場における必携技術書について	菊川 忠重	6	4	183	1952
専売公社中央研究所研究資料項目一覧(塩関係)		6	6	285	1952

3.7 その他

質疑応答		2	2	238	1948
あれや, これやの話	齋藤 阜一	3	2	36	1949